

〔読者の声〕

最近の養豚業界について思うこと

All about SWINE 50, 29

近年の養豚業界の話題は豊富で、多岐に渡っていますが、多くの農家さんおよび獣医さんの願いは、「いかにたくさん豚を早く元気に育て上げるか」→（どうすれば利益につながるか）に尽きると思います。

そのために、「防疫対策をしっかりと、病気にならないように。」「母豚に丈夫な子豚をたくさん産んでもらうように。」という話題が多く、その情報の中から自分の農場に合った情報・活かせる情報を取捨選択する必要があると思います。

病気の観点からでは、野生動物の伝染病運搬リスクが高まり、海外種豚の導入が始まっている中、「自分の農場は自分で守る。」ということが重要になってきています。鶏では高病原性鳥インフルエンザの発生報告も相次ぎ、野鳥からの侵入リスクが高まっています。豚も他人事ではなく、イノシシからのAD感染（猟犬）の報告もありました。PED再発の報告もあがってきています。PED流行時に見直した防疫対策を再度見直す必要が出てきているのかも知れません。気を抜くと、すぐそこまで、野生のイノシシやシカ、タヌキなどが忍び寄っています。彼らを脅威とみなして、しっかりとした対策を取ることが必須になってきています。（オオカミ臭の製品などもでてきています。）

また、成績関連で言えば、報告にもありました通り、横ばいからやや良で推移しているものの、

薬品費増のため、利益としては結局横ばいからやや低下のようです。これは、PEDの影響で、ワクチンや対症療法のためのようです。成績は上向いているようなので、ここでもやはり防疫対策が効果的だと思われます。

私も獣医なので、病気→治療（投薬）を考えてしまいますが、その前段階として、まずは「予防」があるべきだと思います。それは①「豚が快適に過ごせる環境を作り出すこと。」から始まり、②「その環境を維持管理すること。」さらに、③「周囲からの悪影響を排除すること。」治療薬を使うよりも、消毒薬やワクチンを上手に使うほうが、結果的に救える頭数も多いですし、労力も抑えられるでしょう。

それでも病気になってしまうものに関しては、しっかりと封じ込めをして、農場内で広がらないように対応するべきです。（当然他の農場にも広めないように。）

結局防疫の話に終始する形になってしまいましたが、これからも、豚には病気の話がついてまわるでしょう。今後、「どんな病気にもかからない」耐性を備えたスーパー母豚と、その能力が遺伝するスーパー子豚が誕生しない限り。そんな豚が出来てしまったら、豚の獣医さんの仕事はなくなってしまうですね。

（株）シムコ 鈴木康久